平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	２２	都道府県・指定都市名	静岡県
ふりがな 学校名（児童数）	いわたしりつとよだみなみしょうがっこう 磐田市立豊田南小学校（470 人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：静岡県磐田市森下 300
電話番号：0538-32-5273
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：
http://www.city.iwata.shizuoka.jp/school/toyoda-minami/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：２小学校
○研究対象教科等：体育
○研究のキーワード：学習意欲の向上，知識の活用，課題解決を図る学習過程の工夫
○研究成果のポイント：「分かった」「できた」などの学びの実感を，単元全体を通して積み重ねていくことで，課題解決へ向かう学習意欲の向上につながった。また，授業改善により，学んだ知識を活用する姿，子供自らが思考・判断して，課題を解決する姿が見られるようになってきた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

自ら学ぶ子の育成

（２）研究主題設定の理由

本校では，学校教育目標を「夢に向かって　学び合う　たくましい子」とし，知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指している。本校の子供の実態から，学習意欲の向上を教育課題の第一として挙げ上記の主題を設定し，子供にとって学びの成果が分かり易い体育科運動領域を重点教科として取り上げ,平成 23 年度より研究をスタートした。平成 25 年度より本研究指定を契機に保健領域を加えて実践するに至った。

運動領域では，課題解決できる力が足りないこと，保健領域においては，知識伝達型の授業から実感を伴った理解を積み重ねる授業へ改善することが課題と押さえた。そして，意欲をもって課題解決を目指す子供の育成のためには，習得した知識や持っている技能を使って考え，判断し，それを表現する授業を通して，「知識や技能を使って考えれば解決できる」という手応えをつかみ，その成果を自覚するまでの学習過程の工夫・改善が重要であると考えた。

（３）研究体制

校長 ― 研究推進委員会 ― 全体会 ― 部　会（運動領域研究部／保健領域研究部）

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	４月	研究主題，研究内容，組織，研究会の進め方等についての検討	８月	外部講師招聘（講師…静岡大学　村山　功氏）理論研修
	５月	研究構想に沿った学習の進め方の共通理解（提案授業）	９月	第２回公開授業研究会（国立教育政策研究所指定校訪問）
		校内研究授業（一人一授業公開）スタート	10月	豊田南小学校研究発表会（講師…日本体育大学　白旗和也氏）
	６月	第１回公開授業研究会（講師…日本体育大学 白旗和也氏）	11月	まとめの校内研究授業
	７月	先進校視察報告		

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

〔運動領域　重点領域…器械運動〕

①運動への挑戦意欲を高め，ねらいに誘い込む教材づくりをする。
②子供が課題解決の見通しがもてるように工夫をする。
・課題解決のもとになる知識を押さえる。
・主運動につながる基本的な動きを経験できるように上達セットを位置付ける。

・課題解決の仕方を整理し，発達段階に応じて目指す姿を明確化する。
・つまずきを想定し，習得に向けた課題を明確に提示する。
③教師が確かな支援をする。
・個に応じて思考の手助けをする言葉掛けをする。
・課題が明確になる場（子供にとってできたかどうかが判断できる場）の設定をする。
④子供相互の関わり合いにより，課題解決の手がかりをつかめるようにする。
・伝えることが分かる場の工夫をしたり，アドバイスタイムを設定したりする。
〔保健領域〕
①子供をねらいに引きつける導入の工夫をする。
②知識を活用し，課題を解決する学習過程を工夫する。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

意識調査の結果（平成 25 年 11 月）

調　査　内　容		学校全体
体育科（運動領域）の学習が好き		93.3%
運動ができるように進んで学習している		94.8%
運動についての有能感	運動が上手にできる	75.9%
	練習すればできる	95.8%
	仲間から受けいれられている	89.8%
保健の学習は必要だ		94.8%
保健の学習が好き		78.3%

※「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」を選択した子供の割合

運動領域では，教材づくりの工夫により，体育学習を心待ちにする子供達の姿が見られた。課題解決場面では，つまずきを想定した課題を明確に提示したことで，だれもが課題の選択ができ，解決に向けた取り組みがスムーズに流れるようになった。また，可視化した場によって，課題の解決に向かう子供相互の言葉掛けが増えた。個に応じた教師の言葉掛けは，子供の思考を促し，課題解決へ向かう意欲を大きく高めた。

保健領域では，導入を工夫することで，子供たちの学習への関心や意欲を喚起し，集中して取り組む姿が見られた。習得した知識を基に，自分自身の生活を振り返ったり，見直したりして，課題の解決を目指した学習過程を組むことで，保健学習の重要性や有用さを感じるとともに，保健学習を学ぶ楽しさを実感する子供が増えた。

運動領域での課題は，「できると楽しい」と感じている子供が多いため，課題解決まで適切な展開によって導くことである。そのためには，自分に合った適切な課題をどのようにして見付けられるようにするか，可視化できる場の工夫，教師の言葉掛けの質の向上が特に重要である。また，身体を動かす楽しさを損なわないように，思考・判断する場面と，思い切り身体を動かす場面とを整理し，単元全体を見通して学習過程の在り方を模索していくことである。

保健領域では，知識を習得するために時間を多く費やしてしまう場面が見られた。活用の場面で，子供たちが，じっくり思考する時間を確保できるように１時間の学習の流れを再構成すること，そのために教える知識を整理し明確にすることが課題となった。

（２）研究成果の意義等

意欲をもって課題解決を目指す子供に迫るには，思考・判断する場面のみを充実させるのではなく，導入，展開，終末のそれぞれの場面を工夫し，単元全体を通しての仕組みづくりが欠かせない。「できた」「分かった」という実感を伴った課題解決には，そのもとになる知識・技能が必要であり，解決の仕方を発達段階に応じて分かり易く指導することが重要である。

保健学習では，講義調になりやすい授業から，実感を伴った理解のある授業へと改善を目指したが，子供自らが知識を活用し課題解決を図るには，課題を解決するもとになる知識をどのように子供が習得していくのか，そして，習得した知識を活用する場面を教師がどのように位置付けるのかが焦点となる。

これらの成果は，学校体制での研究だからこそ得られたものである。導入や場の工夫など、多様な発想が出され、多彩な実践事例へとつながった。授業改善に向けて、井戸端会議的に職員室で話し合う姿が見られ、教職員として互いに高め合う集団となったことに大きな意義がある。

（３）指定期間終了後の取組

これまでの研究の成果と課題をまとめ,ホームページを活用し広く情報提供をしていく。